第 4 章　プラン基本目標別の内容

○【具体的な取り組み】の施策及び【施策の成果目標】の検証指標に　新規　がついているものは、本プランからの新規項目です。

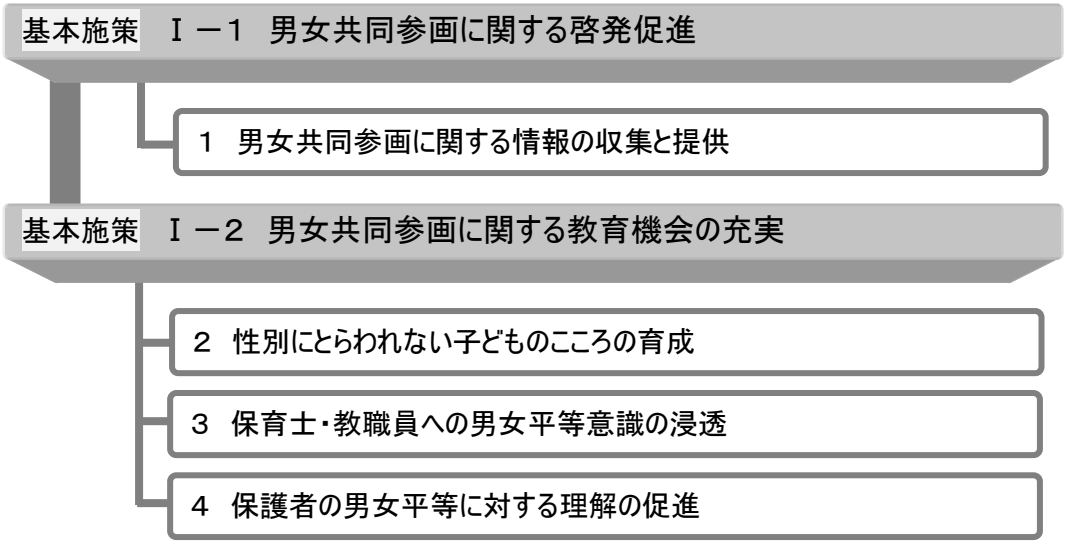
○「施策の成果目標」の見方

・表中の検証指標名に※がついているものは、プラン掲載値と実績値を比較するために、プラン掲載時調査と実績値調査の選択肢の整合を図り、共通しない選択肢を除いて再計算し、掲載しています。

・第２次プランまで指標として設定しておらず、新たに本プランから指標としたものは実績値を「－」で表しています。

基本目標Ⅰ　男女平等意識の促進

【基本目標Ⅰの体系図】



基本施策　Ⅰ－1　男女共同参画に関する啓発促進

【現状・課題】

◆近年、人々のライフスタイルや個人の価値観が多様化するなかで、多岐分野にわたって男女共同参画が進み、社会活動に参加する女性が増加しています。

◆アンケートによると、市民の２人に１人は「男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」という考えをもっており、女性の社会進出が進むなか、人々の意識と女性の社会参加の状況にギャップが生じていることが考えられます。

◆市民の意識の中では、多くの分野で男性優遇感があり、まだ男女が平等だと感じられる環境にはなっていません。

◆「さんかく２１・安城」が企画・運営する講座や情報誌の発行を市と協働して実施し、男女共同参画社会の実現に向けた意識啓発を行っています。

◆近年、高度情報化社会が進展するなかで、性の商品化や暴力表現が女性の人権を侵害している現状があります。このため、メディアからもたらされる膨大な情報を正しく主体的に読み解き、メディアを活用する能力（メディア・リテラシー*10）を向上していくための支援が重要となっています。

【今後の方向性】

市民一人ひとりの男女共同参画に対する意識を向上させるため、各種媒体や講座・フォーラムなどによる情報提供や啓発を積極的に行い、充実させます。

また、氾濫する情報の中から正しい知識を取捨選択できる力を身につけることができるよう、メディア・リテラシーについての講座などにより、市民の意識を高めます。

*10 メディア・リテラシー
メディアの情報を主体的に読み解く能力、メディアにアクセスし活用する能力、メディアを通じコミュニケーションする能力の3つを構成要素とする複合的な能力のこと。

【具体的な取り組み】

１　男女共同参画に関する情報の収集と提供

行動計画	施策	担当課
（１） 市民・企業の男女共同参画への意識を把握する	**1**　男女共同参画に対する意識の実態を把握するため、市民・企業を対象としたアンケート調査などを定期的に実施する	市民協働課
（２） 男女共同参画に関する情報を積極的に発信する	**2**　第３次安城市男女共同参画プランを広く周知するため、プランを活用した講座などを開催する	市民協働課
	3　国の男女共同参画週間、県の男女共同参画月間を広く周知し、男女共同参画に取り組む市民活動団体の活動を活性化させるため、市民活動団体と市が協働して講座・フォーラムなどを開催する	市民協働課
	4　男女共同参画に対する意識を高めるため、男女共同参画に関する国内外の統計、データを収集し、広く市民に情報発信する	市民協働課
	5　男女共同参画に関連する図書や関連雑誌、ＤＶＤなどを充実し、利用普及に努める	中央図書館 市民協働課
	新規 **6**　男女共同参画に関する情報誌を発行し、広く市民に情報提供する	市民協働課
	新規 **7**　メディア・リテラシーについての講座などを開催し、情報提供に努める	市民協働課
（３） 市役所において男女共同参画の視点に配慮した意識・行動の浸透を図る	**8**　内閣府「男女共同参画の視点からの公的広報の手引き」を配布し、広報への掲載記事をはじめ、各課が文書・パンフレットを作成する際に、男女共同参画の視点に配慮するよう働きかける	秘書課
	9　男女共同参画への意識を高めるため、市職員の研修を実施する	市民協働課

【施策の成果目標】

行動計画	検証指標	実績値	３次プラン目標値	担当課
		Ｈ２３年度	Ｈ２９年度（最終年度）	
（1）	家庭生活の場が男女平等であると考える市民の割合※	女性38．4％ 男性48．8％	女性49％ 男性55％	市民協働課
（1）	学校教育の場が男女平等であると考える市民の割合※	女性75．8％ 男性78．3％	女性85％ 男性80％	市民協働課
（1）	社会通念・慣習・しきたりなどにおいて男女平等であると考える市民の割合※	女性20．2％ 男性32．8％	女性29％ 男性41％	市民協働課
（1）	「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成・どちらかといえば賛成の市民の割合※	女性42．4％ 男性54．1％	女性37％ 男性49％	市民協働課
（1）	子どもは女らしさ、男らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよいと考える市民の割合※	女性67．4％ 男性60．5％	女性68％ 男性68％	市民協働課
（2）	新規 市との協働による男女共同参画の啓発のための講座・フォーラム開催数	―	5事業	市民協働課
（2）	女性関連図書の蔵書冊数	1，769冊 （H24．4）	1，800冊	中央図書館

次世代の思い

質問：あなたは「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」など、性別で行動などを決めつけられたことがありますか。

野球の試合に負けて、とてもくやしくて泣いていたら、チームメイトが「男だったら泣かずにシャキッとしろ。」と言ってきました。男でもくやしいときぐらいあるし、泣くことで立ち直れると思う。
（男子中学生）

ゴキブリを嫌がったら、おじいちゃんに「男なんだから怖がるな」と怒られてしまった。
（男子中学生）

テレビを見ながら口をあけて笑っていたら、お父さんやお母さんに「女の子なんだから、笑うときに口をあけて笑うんじゃない」と言われます。笑いたいときには、思いっきり笑いたいのに。
（女子中学生）

学校の部活の壮行会で、応援団のたいこをやりたかったが、「女子はだめ」と言われてできなかった。
（女子中学生）

基本施策　Ⅰ－2　男女共同参画に関する教育機会の充実

【現状・課題】

◆中学生へのヒアリング調査結果によると、「自分らしく生きることができるようにするためにどんな社会になってもらいたいか」という質問に対し、男女ともに「男女平等」、「個性の尊重」などの意見が多くありました。

◆子どもたちの周囲にいる保護者、教職員などの考え方は、子どもたちに無意識のうちに影響を与えています。次世代を担う子どもたちの成長過程においては、性別にかかわりなく個性を尊重し、豊かな人間性を育むことができるよう保護者や教職員などに対してジェンダー*11意識の改善や、男女共同参画の意識啓発を積極的に進めていくことが必要です。

【今後の方向性】

子どもたちに対しては、性別にとらわれないこころの育成を図り、教職員に対しては、男女共同参画の視点をもった指導体制づくりに努めます。

また、保護者に対しても、男女共同参画への理解の促進に努めます。

【具体的な取り組み】

２　性別にとらわれない子どものこころの育成

行動計画	施策	担当課
（４） 男女平等意識を育む保育・教育を進める	１０　児童・生徒向けに、男女共同参画に関する資料を作成・配布し、男女平等意識の浸透を図る	市民協働課
	１１　一人ひとりの良さや個性を伸ばす保育・教育を大切にすることにより、子どもたちに自然な形で男女共同参画の浸透を図る	子ども課 学校教育課

*11　ジェンダー
「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれついての生物学的性別（セックス／sex）がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によってつくり上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー／gender）という。「社会的・文化的に形成された性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われている。

３　保育士・教職員への男女平等意識の浸透

行動計画	施策	担当課
（５） 保育士・教職員への研修を進める	１２　保育士・教職員を対象に、男女共同参画に関する研修を実施し、男女平等への理解を深める	子ども課 学校教育課

４　保護者の男女平等に対する理解の促進

行動計画	施策	担当課
（６） 男女平等への理解を深める学習の機会を提供する	１３　育児講座、家庭教育学級、乳幼児学級などの講座内容に男女共同参画の視点を取り入れる	子ども課 生涯学習課
	１４　児童・生徒の保護者向けの各種研修会や講座、講演会において、男女共同参画に関する内容を取り上げる	学校教育課 生涯学習課

次世代の思い

質問：「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」といった考えをどう思いますか。

モラルを守っているならば、とらわれなくてもいいと思います。言葉遣いが悪いのは女子だけではなく、男子でも良くないと思うので、性別で行動などが制限されるのはよくないと思います。　（男子中学生）

「自分らしく」という考えがいいと思う。女の子だからとか、男の子だからというのは、生活の中では嫌。　（男子中学生）

生物学的にオスとメスがあっても、社会的には男も女もなく、みんな一人の人間だと思います。男だって家事はするし、女だって働きに出ます。当然だと思います。　（女子中学生）

今まではあまり気にしたことはありませんでしたが、おかしいことだなと思いました。人それぞれ違うところがあり、それを認めないのは、社会の広がりを止めてしまう原因だと思います。人の考えによって社会が広がるのであれば、それを止めてしまうのはもったいないです。　（女子中学生）